

9月25日 No.1364

2017年(平成29年)

週刊 月曜発行

発行人 河村 勝志

平成元年9月22日 第3種郵便物承認

購読料 年間 22,900円+税  
(定価) 1部本体 495円+税

週刊

# 循環経済新聞

## The Recycling Economy Times

### 産業 生ごみの肥料・ 燃料化を実現 オカモト 食リ施設に導入拡大へ

高圧カスの製造・販売を行うオカモト産業(広島県呉市、岡本茂裕社長、0823・25・2111)は、ワイ・エム・イー(岡山県倉敷市)が開発した「スピーディートラ

工程を「ペレット製造

はそばに例えると分か

りやすい。そばの基本

は小麦2割、そば粉8

割の二八そばだが、ペ

レットも樹種の配合の

仕方などで強度が変わ

る。例えを用いて

分りやすく説明。認証

のために必要な品質管

理などについても、製

造上や井を日報形式で

記録することやそのた

めに製品を観察するこ

と、観察の際のポイント

などを説明した。

要と訴え、大規模集中

型から地元分散型への

転換を提案。①脱炭素

を支援する——と説明

し、バイオマスを活用

社会的形成の循環持続

し、バイオマスを活用

し、バイオマスを活用

し、バイオマスを活用

し、バイオマスを活用

し、バイオマスを活用

し、バイオマスを活用

し、バイオマスを活用

し、バイオマスを活用

し、バイオマスを活用

「スピーディートラッシュャー」を核とする有機性残さ物処理システム。有機性残さを熱風で乾燥・減容化し、肥料や燃料として有効活用するシステムだ。

処理対象物は食品残

さの他、汚泥、家畜ふ

ん尿、紙くず、木くず

など幅広い。工程は、

処理物を同機に投入

し、内部の特殊な回転

羽根で破碎しながら高

温の熱風で高速乾燥す

る流れ。製造物は、パウ

ダー状となり、成形機

でペレット状にするこ

とも可能という。

乾燥熱源には、廃棄

物由来のペレット・木

質チップ等を燃料とす

る関連設備の ecoポ

ートを使う。スピー

ディートラッシュャーに

よる製造物も燃料にで

きる点が特徴で、同社

は「廃棄物由来の燃料

を使用できるため、化

石燃料と比べランニン

グコストが安く、収益

性が高いシステムを確

立できる」とする。

販売実績は10年以上

に上る。同システムの

導入エリア拡大を図る

ことで、さらなる廃棄

物のリサイクル率向上につなげる考え。「同機で製造した燃料等の販路紹介など、顧客サ

ポートも積極的にに行っ

ていきたい」とする。

製品ラインアップ

は、最大処理能力が日

量500キログラム10シマ

での8機種。10シタイ

プの「T-10000

型は、機体寸法が幅

約2.2×奥行約12

×高さ約3.3、容

積が30立方メートル。同社の

担当者は、「ユーザー

からは、導入後の収支

も含め、安価で丈夫だ

として好評を得てい

ると話している。

海外からの木質燃

料の輸入も増えてい

る。PKSは、7月

の累計が61万564

ト(金額70億328

3万円、11・2円/

キ)で、昨年(34万

ト)の倍近い。しか

し、輸入量は増えた

が、4月(11・9円)

以降の単価は落ち続

ける。国内の大型施

設が次々と発電を始

めたこと、国内の未利用チ

需要伸  
上昇し

し、圧縮成形したバ

イオマス燃料で、安

定した効率の高い発

熱量を得られる。木

質の他、ゴムの木、

稲ワラ、米ヌカとい

った農業残さもター

ゲットになってい

る。日本だけでなく、

EU他、アジアでも

需要は伸びたことは

明らか。それでも単

価が上がらない理由

要が増加。油断でき

ない。

農水省は、今年5月

に設置された「食品産

業戦略会議」で、7月

までの議論を踏まえた

中間論点整理を行っ

た。この中で、食品製

造業が生産性を向上

するうえで必要な取

り組みの方向性とし

て、賞味期限の見直し

による廃棄ロスの削減

を挙げた。

中間論点整理では、

賞味期限に過度に厳し

い取引慣行の見直し

「スピーディートラッシュャー」[T-10000型]

農水省は、今年5月

に設置された「食品産

業戦略会議」で、7月

までの議論を踏まえた

中間論点整理を行っ

た。この中で、食品製

造業が生産性を向上

するうえで必要な取

り組みの方向性とし

て、賞味期限の見直し

による廃棄ロスの削減

を挙げた。

中間論点整理では、

賞味期限に過度に厳し

い取引慣行の見直し

や、おいしく食べられ

る期間としての賞味期

限の意味を消費者へい

っそう周知するなど、

食品の廃棄ロスを削減

する活動の重要性を指

摘。「品目」によっては、

包材の高度化やよりの妥

当を挙げた。

中間論点整理では、

賞味期限に過度に厳し

い取引慣行の見直し

や、おいしく食べられ

る期間としての賞味期

限の意味を消費者へい